

# 石狩の若者の地元定着促進と 道外からの人の呼び込みプロジェクト

【推進エリア】石狩地域

【主な実施主体】道、市町村、民間

## 目的

若者の道外への人口流出を抑制するため、石狩地域に立地する多数の大学等の教育機関をはじめ、市町村や地元企業等との連携により、新規学卒者等の地元就職・定住の促進を図るとともに、新たな就農環境づくりや企業誘致などによる雇用の場の創出に取り組みます。

特に、首都圏など道外から人を呼び込むため、道外企業や学生に向けて石狩地域で生活する魅力の発信に加え、新たな生活様式に対応した働き方である、管内におけるサテライトオフィス設置の促進等、テレワーク環境整備の提案などを行い、関係人口の創出や拡大、移住・定住の促進に取り組みます。

## 施策展開

- 【施策】
- 若者の地元定着・就業に向けた取組の促進
  - 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出
  - 道外からのU・I・Jターンの促進

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

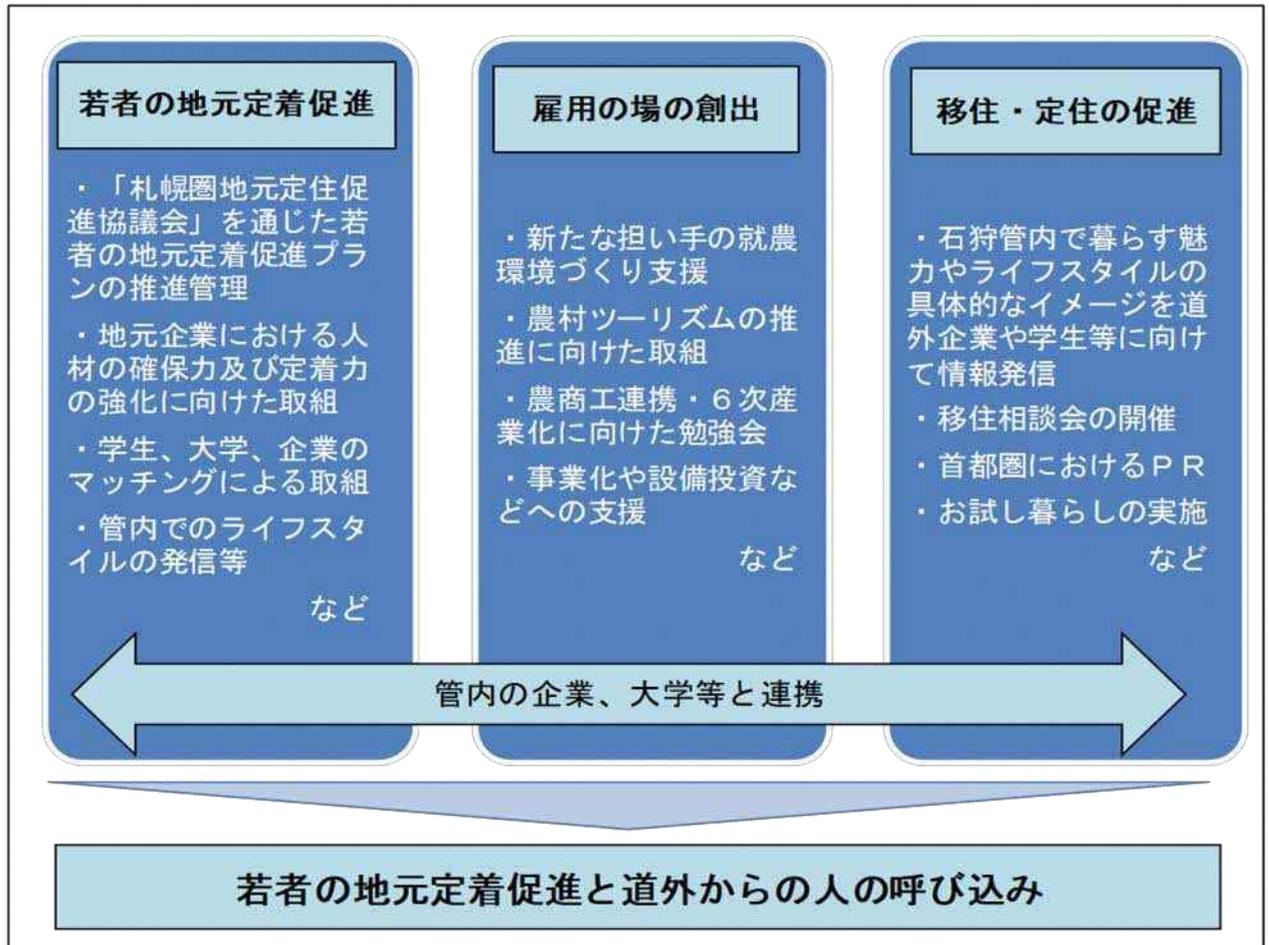
- 新規大卒道内就職者の3年以内の離職率  
前年度より改善（R3～R7）（※R1：36.4%）
- 石狩地域の新規学卒・参入者の就農者数  
5年間（R3～R7）で延べ80人増
- 若年層（15～29歳）の首都圏への転出超過数  
3,352人（R1） → 3,139人（R6）

### ＜施策ごとの主な取組方向＞

- 若者の地元定着・就業に向けた取組の促進
  - 若者の地元定着の促進に向けた取組
  - 地域の連携による若者の地元就業に向けた支援と早期離職防止の取組
- 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出
  - スマート農業の推進と次世代の石狩農業を担う人材の確保・定着に向けた取組
  - 農村ツーリズムの振興と地産地消の推進
  - 道外企業の本社機能の地方移転の促進
  - ものづくり産業への支援を始めとした中小企業の振興と企業誘致の促進
  - 地域資源を活かした6次産業化・農商工連携の推進

■ 道外からのU・I・Jターンの促進

- 移住・定住促進のための効果的な情報発信
- 移住促進に向けた相談サポート
- テレワーク環境整備の促進
- サテライトオフィス設置の促進



**関連する主な基盤整備**

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
  - ・優良農地の維持や農業生産性の向上を図るための農地整備の推進
- 健全な森林の整備と保全の推進
  - ・森林の有する多面的機能を高度に発揮させるための森林整備
- 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり
  - ・漁業生産活動や水産物流通の拠点となる漁港・漁場の整備促進

# 石狩観光スタイルと 石狩の食の魅力ブランド化推進プロジェクト

【推進エリア】石狩地域

【主な実施主体】道、市町村、民間

## 目的

道内をはじめとした国内外の関係人口の拡大を図るため、その立地の良さから都市と自然とを十分に満喫することができる石狩地域の特性を活かして、地域や観光事業者等との連携により魅力ある観光情報を発信、大型集客施設の建設や大規模イベントの開催などによりさらなる発展が期待される地域の魅力を発信しながら、観光客を石狩地域へ誘引する取組を進める。

また、様々な観光客の満足度向上等に向けたおもてなし環境の整備やワーケーションなどを取り入れた新たな観光メニューの開発や地域の食のブランドづくりを推進します。

## 施策展開

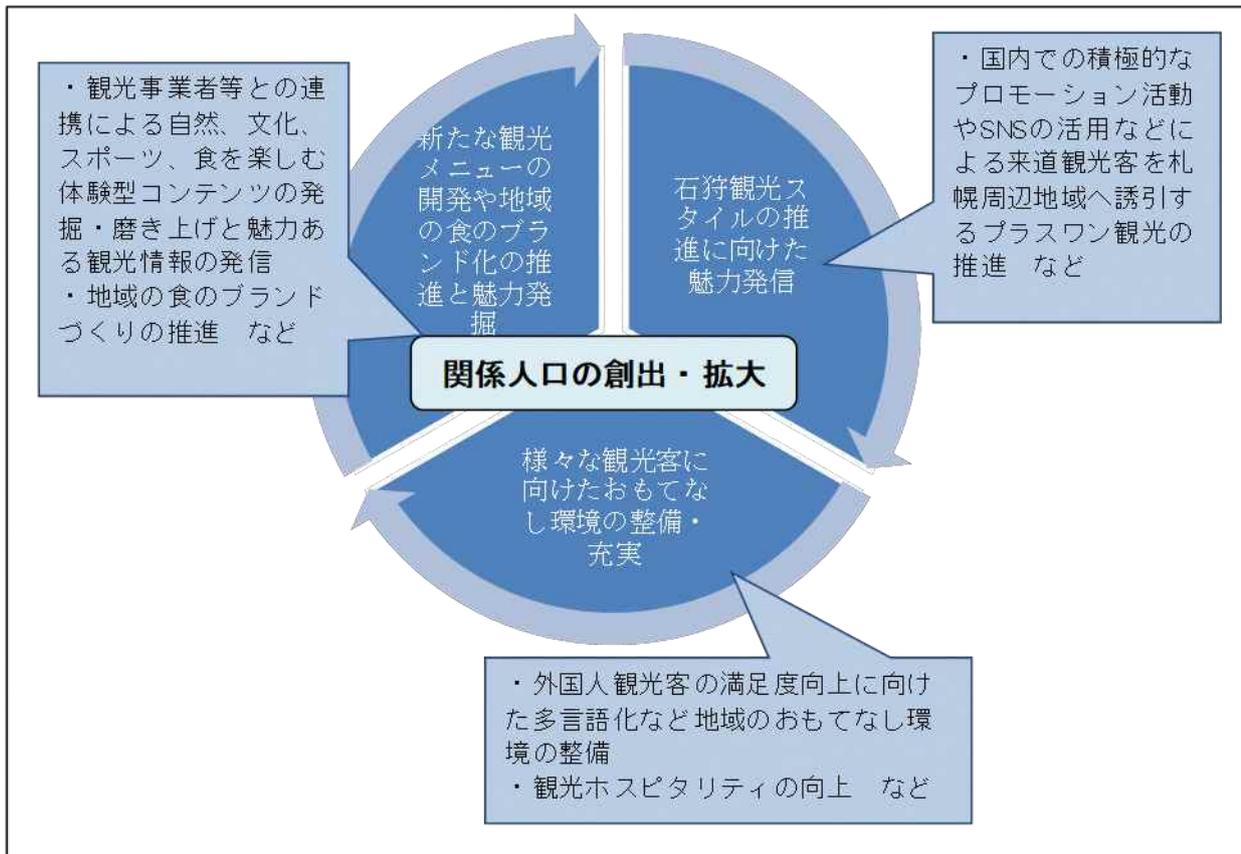
- 【施策】
- 石狩観光スタイルの推進に向けた魅力発信
  - 様々な観光客に向けたおもてなし環境の整備・充実
  - 新たな観光メニューの開発や地域の食のブランド化の推進と魅力発掘

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

- 観光入込客数（※今後、最新の数値を用いて設定する）
- 石狩地域訪日外国人宿泊者数（※同上）
- 農商工連携・6次産業化支援データベースの新規登録件数  
20件以上（R2～R6）

### ＜施策ごとの主な取組方向＞

- 石狩観光スタイルの推進に向けた魅力発信
  - 地域の連携体制の強化による観光の推進
  - 道内をはじめとした国内外からの誘客の促進に向けたプロモーション活動や情報発信と来道観光客を石狩地域へ誘引する取組
  - 大型集客施設の建設や大規模イベントの開催に伴う地域の魅力発信
- 様々な観光客に向けたおもてなし環境の整備・充実
  - 外国人観光客の受入体制の整備・充実
  - 観光ホスピタリティの向上と満足度の高い観光地づくりの促進
- 新たな観光メニューの開発や地域の食のブランド化の推進と魅力発掘
  - 自然、文化、スポーツ、食を楽しむ体験型コンテンツ等新たな観光メニューや観光ルートの開発
  - 地域の食のブランドづくりの推進と魅力発信



#### 関連する主な基盤整備

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
  - ・新千歳空港の機能強化、施設整備促進
  - ・高規格道路の整備促進
  - ・大規模自転車道の整備促進
- 北海道新幹線の整備促進
  - ・札幌までの整備促進

# 安心して子どもを産み育てられる “いしかり”環境づくり促進プロジェクト

【推進エリア】石狩地域

【主な実施主体】道、市町村、民間

## 目的

少子化などによる地域活力の低下に歯止めをかけるため、都市地域の特性や課題を踏まえながら、市町村等と連携し、地域で出産・子育てを支え見守る取組の充実を図るとともに、子育てをしながら働き続けられるよう、企業に対して誰もが働きやすい職場環境づくりに向けた取組を実施します。

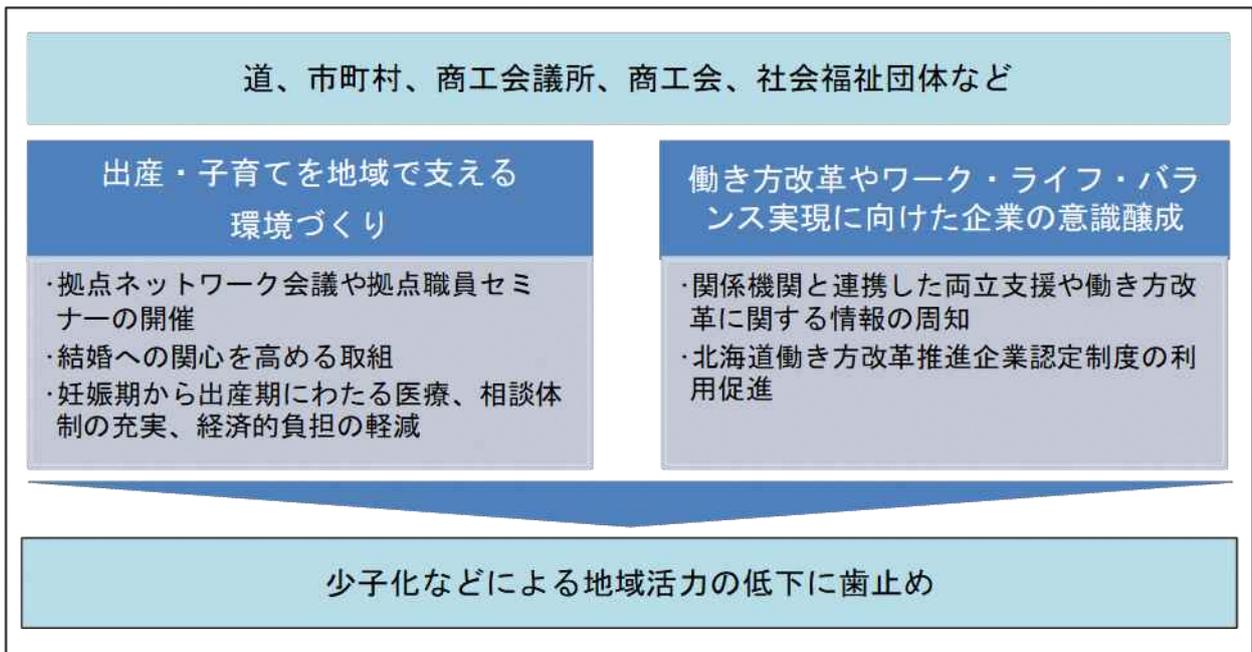
- 【施策】
- 出産・子育てを地域で支える環境づくり
  - 働き方改革やワーク・ライフ・バランス実現に向けた企業の意識醸成

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

- 地域子育て支援拠点数  
36ヶ所（R2） → 38ヶ所（R6）
- 北海道働き方改革推進企業認定制度の認定企業数  
（※今後、最新の数値を用いて設定する）

### ＜施策ごとの主な取組方向＞

- 出産・子育てを地域で支える環境づくり
  - 妊娠・出産・子育てに関する意識醸成と支援体制の充実
  - 結婚への関心を高める取組とサポート
  - 安心して子どもを産み育てられる環境づくり
- 企業への働き方改革やワーク・ライフ・バランス実現に向けた意識醸成
  - 仕事と家庭の両立支援など就業改善の取組への機運醸成
  - 子育て支援を含む働き方改革に積極的な企業等を対象とする認定制度の推進



#### 関連する主な基盤整備

- 子育て支援住宅の普及促進など子どもを安心して育てられる環境づくり
  - ・保育所などの老朽施設の更新や新たなニーズに対応できる施設の整備

# 自然環境と調和した誰もが安心して暮らせる “いしかり”まちづくりプロジェクト

【推進エリア】石狩地域

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

## 目的

少子・高齢化の進展に伴う人口の自然減少等により、今後、地域活力の低下が予想される中でも、地域の住民一人一人が安心して暮らし続けることができるよう、環境や生態系の保全、不法投棄防止対策などにより豊かな自然環境を守り育てるとともに、地域コミュニティ機能の維持・発揮に向けた取組や感染症対策を踏まえた防災対策の推進など、誰にとっても住みやすく災害に強いまちづくりに取り組めます。

## 施策展開

- 【施策】
- 豊かな自然環境を守り育てる取組の推進
  - 誰もが安心して暮らせる社会の形成
  - 防災対策の強化による安全なまちづくり

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

- 協働により実施する石狩地域での木育活動  
(※今後、最新の数値を用いて設定する)
- 石狩地域のエゾシカ捕獲推進プラン目標数の達成  
毎年度同プランで設定する目標数
- 石狩地域の自主防災組織※活動カバー率  
61.6% (R2) → 全国平均値 (R6) (※R2 全国平均 84.3%)
- 石狩地域のクリーンパートナー※登録団体数  
96 団体 (R2) → 150 団体 (R7)

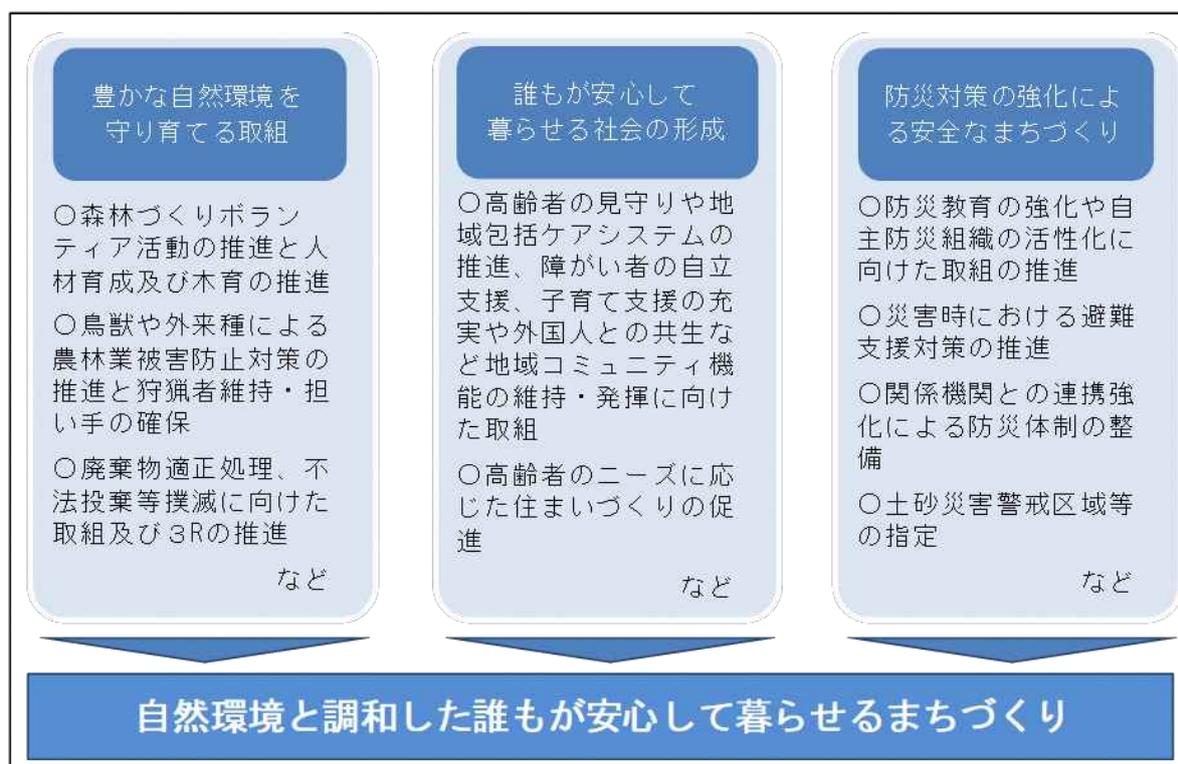
### 〈施策ごとの主な取組方向〉

- 豊かな自然環境を守り育てる取組の推進
  - 森林づくりボランティア活動の推進と人材育成及び木育の推進
  - エゾシカなどの鳥獣による被害状況等の把握と情報共有・助言など
  - 鳥獣や外来種による農林業被害防止対策の推進と狩猟者維持・担い手の確保
  - 省エネルギー・新エネルギーの導入促進に向けた情報共有と支援
  - 廃棄物適正処理、不法投棄等撲滅に向けた取組及び3Rの推進
- 誰もが安心して暮らせる社会の形成
  - 地域住民や事業者との連携による新型コロナウイルス感染拡大防止対策の推進
  - 高齢者の見守りや地域包括ケアシステムの推進、障がい者の自立支援、子育て支援の充実や外国人との共生など地域コミュニティ機能の維持・発揮に向けた取組

○高齢者のニーズに応じた住まいづくりの促進

■ 防災対策の強化による安全なまちづくり

- 災害に備えた社会資本の整備
- 防災教育の強化や自主防災組織の活性化に向けた取組の推進
- 災害時における避難支援対策の推進
- 関係機関との連携強化による防災体制の整備
- 土砂災害警戒区域等の指定
- 行政機能の業務継続体制の確保
- 感染症対策を踏まえた避難所運営による地域防災力の強化



関連する主な基盤整備

- リサイクル・廃棄物処理施設の整備
  - ・産業廃棄物を処理・資源化する施設の整備
  - ・一般廃棄物を処理・資源化する施設の整備
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
  - ・河川環境の再生に配慮した河川・砂防施設の整備
- 持続可能なコンパクトなまちづくり
  - ・既存公営住宅の改善整備の推進
- 国内海上交通ネットワークの整備
  - ・災害に強い海上輸送ネットワークの構築を図るための港湾機能の強化
- 災害に備えた安全な道路交通環境の整備
  - ・災害に強い交通ネットワークの整備促進
- 洪水や土砂災害、火山噴火や大規模地震、津波などに備えた安全性の高い災害防止施設の

## 整備

- ・河川や砂防などの治水施設の整備促進

# 農林水産業の持続的発展・ブランド化推進プロジェクト

【推進エリア】 後志地域

【主な実施主体】 国、道、市町村、民間、NPO

## 目的

後志地域は、米、畑作物、野菜、果樹、畜産など地域の特色を活かした農業、カラマツ、トドマツを主体とした森林資源の循環利用に向けた林業・木材産業、サケ、ホッケ、ウニ、ナマコなど多彩な水産物が水揚げされる水産業が基幹産業となっているものの、後継者不足や高齢化、所得の減少が進んでいます。

そのため、担い手の確保や収益性の向上に向けた取組を推進し、農林水産業の持続的発展を図るとともに、豊富で良質な1次産品を活用した商品開発や情報発信などにより、高付加価値化やブランド化を促進していきます。

## 施策展開

- 【施策】
- 高品質で収益性の高い農産物の栽培及び ICT を活用した省力化技術の普及
  - 道内一の収穫量を誇る醸造用ぶどうを活かしたワイナリーの集積
  - 日本海漁業振興を図るためのナマコやホタテなどの増養殖
  - 磯焼け地帯の未利用資源であるウニの身入り改善等による付加価値向上及び安定供給体制の確立
  - 全道屈指の強度を持つ「ようていカラマツ」の利用促進
  - 多様な農林水産業の担い手の育成・確保
  - 多彩な一次産品や特産品の地元利用と道内外への販路拡大

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI\*）〉

○新品種農産物（シャインマスカット）出荷数	2,520kg (R02)	→	6,000kg (R06)
○新規就農者	34人 (R01)	→	34人 (R07)
○管内製材・木材チップ工場における原木消費量	69,000 m <sup>3</sup> (R02)	→	77,000 m <sup>3</sup> (R07)
○新規漁業就業者数	7人 (R02)	→	9人 (R07)

### ＜施策ごとの主な取組方向＞

- 高品質で収益性の高い農産物の栽培及び ICT を活用した省力化技術の普及
  - 高収益作物の導入
  - ICT を活用した省力化技術の普及
  - 鳥獣被害防止の推進
- 道内一の収穫量を誇る醸造用ぶどうを活かしたワイナリーの集積
  - 栽培・醸造・マーケティング等の技術の向上

- 日本海漁業振興を図るためのナマコやホタテなどの増養殖
  - ナマコやホタテなどの増養殖の推進
  - トドなどの海獣による漁業被害防止対策の推進
  - 密漁監視体制の強化
  
- 磯焼け地帯の未利用資源であるウニの身入り改善等による付加価値向上及び安定供給体制の確立
  - 海域特性に応じた効率的・効果的な栽培漁業<sup>\*</sup>の推進
  - 天候に左右されない蓄養の体制整備の推進
  - トドなどの海獣による漁業被害防止対策の推進（再掲）
  - 密漁監視体制の強化（再掲）
  
- 全道屈指の強度を持つ「ようていカラマツ」の利用促進
  - 「ようていカラマツ」としてのブランド化の推進
  - 地域の特性に応じた森づくりの推進
  - 地材地消の推進
  
- 多様な農林水産業の担い手の育成・確保
  - 担い手の育成・確保
  
- 多彩な一次産品や特産品の地元利用と道内外への販路拡大
  - 特産品の発掘・磨き上げ
  - 安全・安心を基礎とした「食」のブランド力の向上
  - 「ようていカラマツ」としてのブランド化の推進（再掲）
  - 地元食材のレストランでの利用促進など産消協働の推進
  - 官民協働による国内外でのプロモーションの展開

### 農業の持続的発展

- ・高収益作物の導入
- ・ICTを活用した省力化技術の普及
- ・鳥獣被害防止の推進

### 林業・木材産業等の健全な発展

- ・地域の特性に応じた森づくり
- ・地材地消の推進

### 水産業の持続的発展

- ・増養殖の推進(ナマコなど)
- ・効率的・効果的な栽培漁業<sup>※</sup>の推進
- ・海獣被害防止対策の推進

## 担い手の育成・確保

# 農林水産業の持続的発展・ブランド化

### 地域のブランドの創造・確立

- ・特産品の発掘・磨き上げ
- ・「ようていカラマツ」のブランド化推進

### 販路拡大・観光と連携した「食」ブランドの発信

- ・地産地消、産消協働の推進
- ・官民協働による国内外へのプロモーションの展開
- ・ガストロノミーツーリズムの推進

## 関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
  - ・水田・畑の整備推進
- 農地及び農業用施設の機能回復や災害を防止するための施設の整備
  - ・農地や農業用施設の機能回復
  - ・地すべり防止施設などの整備推進
  - ・河川などの治水施設の整備推進
- 健全な森林の整備と保全の推進
  - ・伐採跡地への植栽や間伐などの促進
- 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり
  - ・漁港、増養殖場などの整備促進
- 高規格道路<sup>※</sup>の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
  - ・物流拠点へのアクセス道路の整備促進

# 国際観光リゾートエリアとしての 持続可能な観光地づくりと広域観光展開プロジェクト

【推進エリア】 後志地域

【主な実施主体】 国、道、市町村、民間、NPO

## 目 的

後志地域は、リゾートエリアを中心としたウィンタースポーツや夏季のサイクリング、ラフティングなどのアクティビティや優れた景観などにより、国内外から多くの観光客が訪れる本道を代表する観光エリアとなっています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の観光需要が大きく減少しています。また、日帰り観光客の割合が多いことや観光客の季節偏在という課題の解決、今後の新幹線開業や高規格道路整備による新たな交通ネットワークを見据えた取組が求められています。

このため、国内客の呼び込みの拡大やポストコロナの観光需要回復を見据えたインバウンド受入体制の整備を推進するとともに、アドベンチャートラベル等の新たな観光資源の発掘・磨き上げや、地域内で作られる豊かな食資源を活かしたガストロノミーツーリズム等による広域観光や滞在・通年型観光の推進に取り組み、観光客が安心して楽しむことができる持続可能な観光地を目指していきます。

## 施策展開

- 【施策】
- 後志地域の食資源を活用したガストロノミーをテーマとした広域観光の推進
  - リゾートエリアを中心としたウィンタースポーツのほか、管内各地で取組を進めている夏季のサイクリング、ラフティングなどのアドベンチャートラベルの推進による地域の魅力向上
  - 新たな交通ネットワークを広域的に活用するための連携した取組の推進
  - 地域の観光ビジネスで活躍できる国際感覚やコミュニケーション能力を備えた人材の育成

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI\*）〉

○観光入込客数 2,142万人（R01） → 2,500万人（R07）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 後志地域の食資源を活用したガストロノミーをテーマとした広域観光の推進
  - 農業・漁業体験など一次産業や食品加工業を始めとする二次産業と観光事業者との連携を図りながら「食」を活かした魅力ある観光地づくり
  - 広域観光の推進

- リゾートエリアを中心としたウィンタースポーツのほか、管内各地で取組を進めている夏季のサイクリング、ラフティングなどのアドベンチャートラベルの推進による地域の魅力向上
  - インバウンド受入体制の充実
  - 官民協働による国内外でのプロモーション展開
  - 自然・景観の保全と活用による質の高いリゾート地域の形成
  
- 新たな交通ネットワークを広域的に活用するための連携した取組の推進
  - 宿泊地（ハブ）と周辺の地域（サテライト）が連携し、多彩な魅力ある観光資源を活用した通年型・滞在型観光の推進
  - シーニックバイウェイ北海道\*の推進
  - 地域交通ネットワークの充実・確保
  - 広域観光の推進
  - インバウンド受入体制の充実（再掲）
  - 自然・景観の保全と活用による質の高いリゾート地域の形成（再掲）
  
- 地域の観光ビジネスで活躍できる国際感覚やコミュニケーション能力を備えた人材の育成
  - インバウンド受入体制の充実（再掲）
  - 商品造成や観光誘客プロモーションができる人材の育成



**関連する主な基盤整備**

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
  - ・広域観光を支える二次交通\*の整備
- 高規格道路\*の整備

- 北海道新幹線の整備促進
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
  - ・環境に配慮した河川・砂防施設の整備促進
- 自然公園における利用施設の整備など自然とのふれあいの場づくり
  - ・自然公園の整備促進